



大乗教インド別院

インド ブッダガヤ



写真:インド大仏

大乗教が1989年にインド・ビハール州ブッダガヤに建立。高さ 約25m.

For more information about the Great Buddha Statue, Buddhagaya visit:

<http://www.daijokyo.or.jp>

Daijokyo Buddhist Temple
Great Buddha Statue Road
Post Box No.20
P.O. Buddhagaya 824231
Gaya, Bihar, India
Tel : 631-2200-747
Fax : 631-2200-407
E-mail : daijokyotemple_bg@yahoo.co.in



大乗教管長 杉崎法涌

(写真中央:ブッタガヤ大塔にて2004年撮影)

Most Rev. Hoyo Sugisaki, Chief Abbot and President of Daijokyo
(at centre of photograph; Mahabodhi Temple, 2004)

Why India ?

大乗教は過去20年以上にわたってインド、ビハール州ブッタガヤにおいて別院を構え、地域において救済活動に携っています。ただ時おり皆様方から「なぜ日本から遠く離れたインドにおいて、しかもビハール州のブッタガヤにおいて活動をしているか」とのご質問を受けます。そのような時、私は必ず次の3つのことを理由としてご説明するように心がけています。

一つ目は、当然のことですがインドが仏教のふるさとだからです。約2500年前にお生まれになられたお釈迦様はインドの地で生まれになり、尊い教えを遺されました。私どもも仏弟子として仏教の悠久の歴史に連なりたいという願いを持っています。

二つ目は、ブッタガヤが仏教の四大聖地の中でも最高の聖地だからです。釈迦族の王子であられたゴータマ・シッダールタはブッタガヤにおいてお悟りを開かれ、仏陀におなりになった。お釈迦様の成道(じょうどう;悟りを開くこと)なくしては、仏教はこの地球上に存在していないはずで、すなわち仏教の原点であるブッタガヤで活動することは、仏教徒として最高の誇りであると大乗教は考えています。

三つ目は、大乗教の教祖杉山辰子先生の教えがあるからです。杉山辰子先生はご生前中に、「我閻浮提(えんぶだい)の太陽とならむ」というお誓いを立てられました。“閻浮提”というのは、サンスクリット語で *jambudvīpa* といい、“人間の住む世界(全世界)”、“インド亜大陸”など様々な意味で使用されます。大乗教は杉山辰子先生のお言葉の中に、仏教の原点(=狭義の“閻浮提”、インド・ブッタガヤ)に戻って、そこをスタートとして全世界(=広義の“閻浮提”)にお釈迦様の教え、法華経の教えを広げ、人々を救っていかうという遠大な志(=太陽とならむ)を読み取り、杉山辰子先生のお誓いの実現に向けて日々努力をしています。

大乗教管長 杉崎法涌

大乗教インド別院の沿革

- 1977 大乗教宣教師のインド派遣開始
- 1983 インド釈迦堂完成(ジュール・シン インド大統領(当時)落慶式にご臨席)
- 1985 職業訓練学校開校
- 1988 ブディストハウス完成
- 1989 インド大仏開眼(ダライ・ラマ14世 開眼式典にご臨席)
- 1993及び1996 インド十大弟子像開眼
- 1998 ミヤビカ村アーナンダ学校開校
- 2000 スジャータ村ヘルスケアセンター(医薬品無料配布)開所
- 2001 インド教祖像開眼
- 2004 世界仏教徒会議(ニューデリー)にてA.P.J.カラム インド大統領より
功労賞(菩提樹の苗木)を授与される[写真]



大乗教インド大仏 Great Buddha Statue



大乗教インド大仏は、1989年11月18日に除幕開眼されました。開眼式にはチベット仏教の最高指導者ダライ・ラマ14世もご臨席になり、インド史上はじめて建立された高さ25mの大仏の誕生を祝福されました。現在、聖地ブッダガヤにおいては世界遺産マハボディ・テンプルに継ぐシンボルとして世界各国からの巡礼者に親しまれ、参拝の列は途切れることがありません。地元の方々は“80フィート(25m)大仏”という愛称で呼んでいます。

大乗教は合言葉：「世界に仏陀の光を」のもと、7年の歳月をかけ、延べ12万人の石工を動員してこの大仏を建立しました。大事業を推し進めることができた最大の原動力は、聖地ブッダガヤを起点とした仏教のさらなる発展と世界平和実現を願う人々の純粋な心であったことを我々は忘れないでしょう。

参拝時間：7時—12時、14時—18時（冬季は17時30分まで）

釈迦十大弟子像 Statues of Ten Great Disciples of Buddha

インド大仏の境内には、お釈迦さまの10人のすぐれたお弟子の像がインド大仏を左右より取り囲み、仏を守るかのように、また慕うかのように侍立しています。10人のお弟子のうち、舎利弗尊者（智慧第一）、大目犍連尊者（神通第一）の立像は平成5年11月に除幕開眼されました。また残りの八人の尊者の立像、即ち大迦葉尊者（頭陀第一）、須菩提尊者（解空第一）、富楼那尊者（説法第一）、摩訶迦旃延尊者（論議第一）、阿那律尊者（天眼第一）、優波離尊者（持律第一）、羅睺羅尊者（密行第一）、阿難陀尊者（多聞第一）の立像は平成8年3月に除幕開眼されました。十大弟子像にはインド大仏と同じくベナレス近郊のチュナールで採れた砂岩が使われています。

インド大仏と十大弟子像を見て、法華經に親しむ参拝者の中には、靈鷲山の頂でお釈迦さまが十大弟子を含む大勢の聴衆に圍繞されている場面を連想する方がいるかも知れません（序品第一）。

それは、お釈迦さまが法華經という真実の教えを今正に説かれようとする前の神秘的な静寂の世界です。

また、朝日が東から昇るとき、インド大仏は淡紅色に染まり、眉間の白毫は金色に輝きます。その光景はあたかも、仏の眉間白毫から放たれた光が、東方1万8千の世界と、一切衆生の姿を照らしながら幕明けとなる法華經の世界を表現しているかの様です。



滞在をより思い出深いものに!

写経体験

写経は大乗教インド大仏内に設置いたします。

ヨガ体験

宿泊者のご要望により、ヨガの講師をご紹介します。

ご体験なさりたい方はブディストハウスマネージャーまでお声をお掛けください。

境内MAP



1. 管理棟
2. 大乗教職業訓練学校
3. ブディストハウス
4. 釈迦堂
5. 故杉崎法山先生、故柴垣法隆先生胸像
6. 教祖杉山辰子先生銅像
7. 大乗教インド大仏
8. 釈迦十大弟子像

釈迦堂 Shakado



1983年に建立された大乗教インド別院の中心的建物です。二階の本仏殿には、大乗教のご本尊、一尊四菩薩（久遠実成釈迦牟尼仏、上行菩薩、無辺行菩薩、浄行菩薩、安立行菩薩）が奉祀されています。また、屋上にある三重の塔の内には、聖仏舎利が奉安された仏舎利殿（三階）と大乗教教祖杉山辰子先生の胸像が安置された教祖殿（二階）があります。

ブッダガヤは釈尊成道の地（お悟りになられた地）であり、世界の仏教国がそれぞれの寺院を構える仏教の一大聖地でもあります。大乗教はその様な国際的な仏教徒の輪に入り、異なる伝統・文化の壁を乗り越え、ブッダガヤの発展に寄与すべく釈迦堂を建立しました。

参拝時間内であれば、国籍、宗派を問わずどなた様でもご参拝して頂けます。

参拝時間：7時—12時、
14時—18時
（冬季は17時30分まで）

ブディストハウス Buddhist House

1988年にインド釈迦堂敷地内に建設された三階建ての宿泊施設。釈尊聖地ブッダガヤは世界から仏跡巡拝の巡礼者が集まりますが、ブディストハウス建設当時、巡礼者の宿泊に適したホテル等の施設はブッダガヤに十分ありませんでした。その為、現地の要望を受けて、約100人の宿泊に対応できるブディストハウスをオープンさせるに至りました。現在は宿泊者の要望に応じて簡単な日本食もご用意させていただきます。

ブディストハウスのスタッフはインド人で英語と日本語を話します。宿泊をご希望の方は直接現地にお問合せ頂くか、あるいは大乗教総本山事務局にお問合せ下さい。

お問合せ先：Kiran Lama, Manager
Daijokyo Buddhist House
Great Buddha Statue Road
Post Box No.20
P.O. Buddhagaya 824231
Gaya, Bihar, India

TEL: (631) 2200-747 TEL: (631) 2200-407

E-mail: daijokyotemple_bg@yahoo.co.in

*ブディストハウスへのお問い合わせのFAXやメールは英語でお願いします。
日本語の場合は大乗教総本山事務局 (052-671-6146) へ。



客室の一例：ツイン・タイプ
*全室シャワー、トイレ付



大乘教教祖杉山辰子先生ご略歴

慶応4(1868)年7月28日岐阜県に生まれる。16歳の頃、不慮の災難により衰えた家運の挽回を願い、戸田伯爵の信奉する鈴木キエ師を大垣に訪ね、法華経信仰に出会う。

25歳より約20年間、愛知県各地において法華経教義の研究と共に荒行を続ける。断食40余回、水行は50余回を数えた。水行中のある日に天耳より肉体的苦行の無益さを知った教祖は、法華経の弘通こそ仏のみ心であると悟り、深く観法の修行に入った結果、法華経の最高教理「事の一念三千」の真理を体得し、末法の大導師本化地涌の四菩薩の一人、安立行菩薩の大因縁を自覚する。

大正3(1914)年秋、名古屋に大乘教の基礎となる仏教感化救済会を村上齋医師と設立。真に人々の救済を目的とする生きた仏教を指標として、人々の生活の中に入って教化活動を展開する。大正11(1922)年東京深川水害時には現地に急行して施米を、また、名古屋及び品川の生活困窮者数千名に対しても施米を行う。大正12年の関東大震災に際しては名古屋駅に救援所を設け連日炊き出しをする一方、米などの食糧を名古屋港から芝浦に送り罹災民の救援活動にあたる。また教えと医薬両面によるハンセン病患者の救済に挺身、各地のハンセン病専門病院を慰問・援助すると共に、自らも名古屋及び福岡生の松原に病舎を建設、困難な状況下にありながら難病治療に成果を挙げる。

「人身に生を受けた喜び、妙法に遭えた喜びをもって、明日死んでも後悔のないという功德の積める生活をして下さい」との言葉を遺訓に、昭和7(1932)年6月28日逝去。その生涯は一切衆生救済の精神に貫かれ、安立行の本領を示すものである。



インド教祖像
Statue of
Founder Tatsuko Sugiyama

平成13年、一連の大乘教インド別院施設整備の締めくくりとして、境内に大乘教教祖杉山辰子先生の像が建立されました。高さは6メートル(そのうち台座の高さ2メートル)、日本で制作されインドに送られました。

合掌されたお姿の教祖様の眼差しは遥かなる東方に向けられています。その尊いお姿に、私どもは聖地ブッダガヤの永遠のご守護と、「我 閻浮提の太陽とならむ」と誓われた教祖様の大理想の実現を祈願するものであります。



大乘教の教え

仏教徒としての実践修行のあり方を現代に生かすべく、法華経を『慈悲・誠・堪忍』の三徳の教えとしてとらえ、日常生活に応用していくことを説き続けています。

経典

大乘教は釈尊の説かれた経典中、諸経の王といわれる「法華経」をもって依経としています。

本尊

大乘教は法華経に説かれる久遠実成釈迦牟尼仏を中心に、お脇に上行菩薩・無辺行菩薩・浄行菩薩・安立行菩薩を本尊と定めて信奉しています。

尚、インド別院では釈迦堂本堂に本尊が安置されており、国籍、宗旨宗派を問わずどなた様でもお参りをしていただけます。

教祖

大乘教は杉山辰子先生によって創始されました。大乘教の信徒は杉山辰子先生を安立行菩薩の再誕として信奉しております。全ての人々を救済するという誓いを立てられた安立行菩薩に少しでも近づく為、大乘教信徒は日々教祖の教えの実践に努めています。



故杉崎法山先生(右)、故柴垣法隆先生(左)胸像

Bronze busts of the late Most Rev. Hozan Sugisaki, former President of Daijokyo (right), and the late Rev. Horyu Shibagaki, former Vice-president of Daijokyo (left)

ブッダガヤでの地域支援活動

大乘教教祖杉山辰子先生はご生前中に、ハンセン病患者の救済、不良少年の薫育、大震災被災者の救援そして生活困窮者への援助など様々な社会活動を通じて、法華經の教えを現実社会で苦しむ人々の救済に活かしました。杉山辰子先生を継ぐ大乘教は、ブッダガヤやその周辺の貧しい人々の住む地域を、杉山先生の教えを現代において具現化すべき場所(=道場)と位置付け、インド別院内外で、地域の方々の生活向上のために様々な支援活動をしております。

大乘教職業訓練学校 Daijokyo Vocational School



インド別院内の大乘教職業訓練学校は1985年に開校され、地元ブッダガヤの青少年の為にタイプ教室とミンシ教室を開いています。ブッダガヤのあるビハール州は、インドの中でも最も貧しい地域の一つであり、現在でも若者の就職難が続いています。そこで大乘教では、教育機会に恵まれない若者の為に学びの場を提供し、資格習得によって安定した就職先が得られるようサポートを行なっています。

タイプ教室では英語とヒンディー語によるタイプ訓練が6ヶ月間提供されています。またミンシ教室は女子の為に設けられ、コースは1年間です。両教室とも授業料は無料で、特にミンシ教室では、布材等の教材も学校で支給しています。但し、両教室では修了時に検定試験が課せられ、合格者のみにディプロマ(修了証)が与えられます。大乘教職業訓練学校の厳格な修了証制度は地元ガヤ市などでもよく知られ、就職に活かせることから、生徒達は毎日の授業に真剣に取り組んでいます。

大乘教ヘルスケアセンター Daijokyo Health Care Centre



2000年大乘教ヘルスケアセンターはインド別院近郊のスジャータ村(ヒンズー教徒はバクロール村と呼称)に設置されました。この村は6年間の苦行の為、やせ衰えたお釈迦様に乳粥を献じたスジャータという村娘の名に由来しています。乳粥を飲み干されたお釈迦様が体力を回復され、ついには菩提樹の下で成道されたことから、スジャータは仏教徒にとっての大恩人といっても過言ではないでしょう。実際、スジャータの乳粥供養の事蹟を記念した祠堂も建立されています。

ところが現在のスジャータ村に住む人々はあまりに貧しく十分な医薬品を入手することが出来ません。約2500年前お釈迦様が受けた御恩に対して現代に生きる私共が直接かの村娘スジャータに報いることは出来ないが、せめて現在のスジャータ村に住む人々に無料で薬を配布することによって、かつての御恩に、お釈迦様に成りかわって報いて行かなければならない、大乘教はこの様に考えています。現在はスジャータ村で週2回無料配布を行いつつ、さらに2006年には専用車両を導入し、「移動配布所」をイタワ村においてオープンしました。

アーナンダ学校 Ananda School

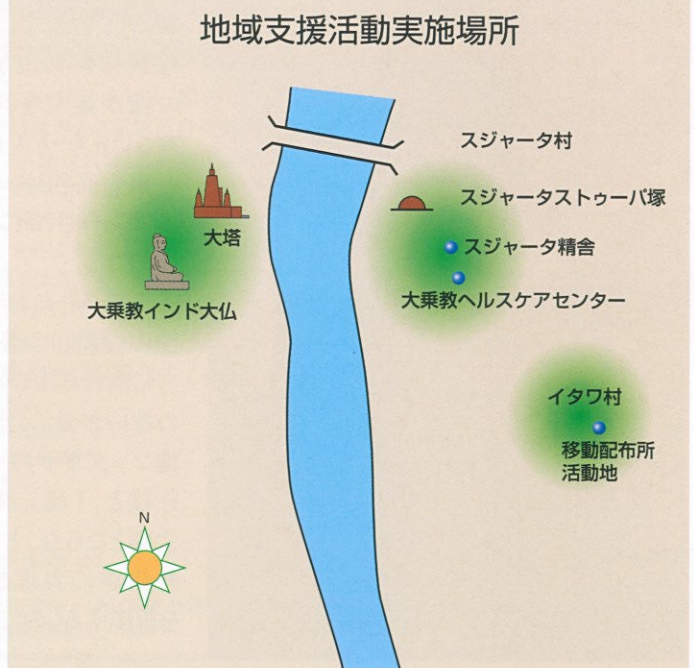


1998年大乘教はブッダガヤ・ミヤピカ村に小学校を寄贈しました。ミヤピカ村はブッダガヤの中でも特に貧しい人々の住む所であり、子ども達の教育環境は決して満足のいくものではありませんでした。そこで地元の要望に答えるため、「アーナンダ・ピディヤ・ピート」という名の学校を建設する運びとなりました。アーナンダとはお釈迦様の十大弟子の一人、阿難尊者のこと。また子ども達が遊んだり勉強するとき楽しく嬉しくなるという意味が含まれています。ピディヤ・ピートとは、インドの古語で学校の意。つまり「アーナンダ・スクール」です。現在もインド別院のスタッフを専任教師として派遣するなどアーナンダ小学校を円滑に運営するお手伝いを続けています。

ブッダガヤ付近地図



地域支援活動実施場所

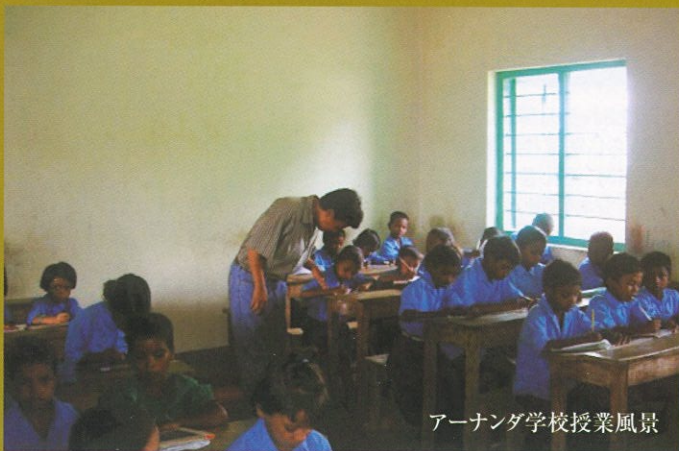


えんぶだい
“我閻浮提の太陽とならむ”

—杉山辰子大乘教教祖



ヘルスケアセンターで診察の順番を待つ人々



アーナンダ学校授業風景



職業訓練学校授業風景

医薬品無料配布活動（スジャー
タ・プロジェクト）にご協力を!!

日本国内でのお問い合わせ先：
名古屋市熱田区外土居町4-7
大乘教総本山事務局
TEL: 052-671-6146 FAX: 052-678-5255
Email: info@daijokyo.or.jp
2006.11.1 発行 © daijokyo 2006